

スペインの思い出

松澤 君代

四月二十三日、長崎県立美術館開館。オープンに当たり「よみがえる須磨コレクショナルスペイン美術の五百年」の企画展を見てまいりました。恥ずかしながら、私、須磨氏を全く存知ませんでした。

中世のスペイン絵画と言え、聖堂美術・宮廷美術のイメージが強く、暗い、重いと思ひ込んでおりました。なぜならば、聖堂美術はスポンサーが修道院など教会関係、宮廷美術は全て王家、貴族だったからです。現代と異なり、当時の画家は芸術家としては認められておらずスポンサーが求める絵を描かねばならなかったからです。

さて、今から四二三年前にイベリア半島を訪れた、日本よりの天正遣欧使節のことを知っていたならば「異なった角度からスペインを見る」とが出来たのに」と思うと残念でなりません。

夫の赴任地スペイン（マドリード）に親子で滞在したのは、一九七九年〜一九八一年でした。その頃の出来事としては、イラン・イラク戦争、日本のオリンピックへの不参加（モスクワ大会）、故ヨハネ・パウロ二世の広島、長崎訪問、英国チャールズ皇太子の結婚、等々です。

皆様はその頃、如何お過ごしでしたでしょうか？

今日は遣欧使節団が通ったスペインの一部をご紹介したいと思いません。スペインを一言で言い表すことは難しく、住民にしても「北部ビス



聖家族教会（ガウディ作）

カヤ地方」にはバスク人、言語を他のスペインとは全く異にする民族がおり、しかもいまだその起源が知られていません。ピレネー山脈付近のバスク民族は、頑強で、勤勉で、進歩的ですが、同時に

する「カタルーニア地方のカタラン人」は勤勉で商才に長けていると言われます。

コロンブスがアメリカ大陸「発見」を果たした第一回目の航海から戻った後、カトリック両王と謁見したのがバルセロナです。現在はガウディが設計した建造物聖家族教会が有名です。「南のアンダルシア」は太陽と肥沃な土地で有名だがその住民は楽天的で陽気な生活享楽派が多く、女性には黒髪、輝くような黒い瞳をもった美人が多く一般にスペイン人といえはこの型を連想させられるようです。

アルハンブラ宮殿、ギター、フラメンコ、刺繍、象嵌細工、グラナダ焼、コルドバのメスキータ（イスラム寺院）馬蹄形アーチとキリスト教大聖堂）ローマ橋とカルメン。セビーリヤの春祭。闘牛等。（二十六聖人前館長結城了悟先生はセビーリヤの御出身です。）

次は、スペインの諸言語について述べて下さい。

「おはよう」を例にとり、これらの言語を比べてみます。ブエノス・ディアス Buenos dias Ⅱカステイリヤ語 ボン・ディア Bon dia Ⅱカタルニア語 ボス・ディアス Bos dias Ⅱガリシア語 エグン・オン Egun on Ⅱバスク語

一九三九年から一九七五年までのフランコ政権の時代カステイリヤ語がスペインを代表する言語になりました。そしてスペイン語以外の言語を公の場で使う事は固く禁じられました。あるカタルニア記念日にガウディは警官に呼び止められたのでカタルニア語で返事をしたところ、警官は「スペイン人ならスペイン語で話せ」と怒鳴られたそうです。

自分の母語に誇りを持つガウディはそれに応じなかつた為逮捕されてしまったそうです。

フランコ体制終了後スペインは民主化を進めました。一九七八年二月六日新しい憲法が国民投票によって承認され、公用語を定めたのです。「カステイリヤ語は国の公用スペイン語であり、全てのスペイン人はこれを知る義務があり、使用する権利を有する」「それ以外の諸言語も自治州の条例に従い、各自治州の公用語となる」「スペインの多様な言語様式が示す豊かさは、文化的遺産であり、十分に尊重し保護しなければならない。」「スペインは幾つもの言語が存亡を賭けてしのぎを削ったのです。

私達がマドリードに住んでいた頃は、スペインが民主化の道を歩み始

バスク特有の文化を愛し、独立心が強いのです。

「中央高原のレオン地方並びに新旧カステイリヤ地方」の住民は、保守的で礼節を重んじ、貴族趣味であり、自尊心が強く又スペイン全土を支配したという誇りを持っているのです。（マドリードはカステイリヤ地方に属します。）

遣欧使節団が泊ったメリダの町はセビーリヤとサラマンカを繋ぐ「銀の道の要衝として栄えたのです。故に現代でも其の地方のローマ時代の遺跡から、大理石像、陶器、貨幣、ガラス細工など出土しています。

ローマ劇場、円形闘技場では現在でもオペラなど上演されています。中世の頃なら尚更のこと、少年使節団はカルチャー・ショックを覚えた事でしょう。又古都トレドでは千々石ミゲルと原マルチノが天然痘に罹り、手厚い看病を受けたようです。このトレドの金・銀細工はスペインが八世紀の間、イスラム文化に支配されていた時、アラブ人がダマスカス地方から伝えたと言われています。

又、ローマの水道橋で有名なセゴビアに美しい城があります。ディズニーが白雪姫のモデルにした城です。「北西のガリシア人」はケルト系と言われ、素朴。勤勉で豊かな空想力の持ち主であり、女性は家庭的なことでも有名です。ピレネー山脈からサンチャゴまでの「巡礼の道」は世界遺産に登録されました。「アストゥーリアス人」は最もゲルマンの要素が強いムーア人の侵入に会わなかつたという点で純血を誇りとしています。アルタミラの洞窟で有名です。

「アラゴン人とナバラ人」は保守的、素朴で又頑強であると言われます。フランシスコ・ザビエルはナバラ王国に生まれました。（現在のバスク地方。）ザビエルという名は母親が結婚する時に持参してきた城地の名前です。ザビエルという地に生まれたフランシスコさんという意味です。当時のナバラの首都はパンプローナでした。牛追い祭で有名です。ゴヤはアラゴンの田舎町の出身です。地中海岸バルセロナ市を中心と

めた丁度「その時」だったので。クーデター未遂事件。爆破事件。危機管理。自己責任等。私達は身を持って体験してまいりました。（長崎ふみの会）

風信

○七月と言え「タナバタ」である。先日、中学校の人達が勉強にこられて、早速の質問は「七夕」と書いてどうして「タナバタ」と読むのですかときかれた。

○七月十日、第十三回の民謡コンクールが長崎市チトセピアホールで開催された。出場者一三三名の盛会であった。これは一重に平川浄・本多由明他長崎県民謡協会各委員の御協力のおかげと感謝申し上げる次第です。

○七月二十四日は長崎飯香浦の地蔵盆で、其の盆の供養に奉納される「ソーメン飾り」と、盆の前夜から始まる「念佛供養の鐘」は市の無形文化財に指定されている。昔は、此の日に、お参りに行くと「ふくれ饅頭」のお接待があつたのですが今はどうでしょうか。

○八月に入ると盆の行事におられる。その最高潮は十五日夜の精霊流しである。戦前はみな印燈籠を先頭におし立て、船を担いで双盤（鉦）の音に合わせて静かに大波止まで送っていたが、今はその風景はなくなつてしまった。

○八月十六日は「地獄の釜の蓋のあく日」であり、有名な伊良林光源寺の「産女の幽霊」と、寺町三宝寺の「地獄大絵図」御開帳の日である。この日にお参りに行き、「幽霊飴」をいただくと、子どもはすくすくと育つと昔の人は言っている。

○長崎館内町の旧家森裕先生来訪され、「祖父が大正三年に書いた、「森家家訓と年中行事控」が倉庫で見つかったので参考に読みませんか」と持参して下さいました。早速拝見したところ森家の小作上納米は一千六百十四俵もあり、幕末における長崎年中行事の諸式がことこまかに記してあつた。中でも私には、年中行事食の記録、例えば正月雑煮の献立。二月初午の料理。四月三日節句の献立。宮日のにしめ。十二月三十一日の年取祝膳など大いに参考になった。

長崎歴史文化協会研究室

TEL 八二二一五四〇
十八銀行公会堂前出張所 二F

